

令和5年 第2回(定例)須 恵 町 議 会 会 議 録 (第2日)

令和5年9月8日(金曜日)

議 事 日 程 (第2号)

令和5年9月8日 午前10時00分開会

日程第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第 1 一般質問

出 席 議 員 (13名)

1番	平 山 諭	2番	川 原 幸 治
3番	白 水 春 夫	5番	男 澤 一 夫
6番	稲 永 辰 己	7番	川 口 満 浩
8番	百 田 輝 子	9番	三 角 栄 重
10番	猪 谷 繁 幸	11番	今 村 桂 子
12番	三 上 政 義	13番	田 ノ 上 真
14番	松 山 力 弥		

欠席議員 (なし)

事務局出席職員職氏名

局 長	梅 野 猛	主任主事	吉 開 英
-----	-------	------	-------

説明のため出席した者の職氏名

町 長	平 松 秀 一	副 町 長	稲 永 修 司
教 育 長	猪 股 清 貴	税 務 課 理 事	合 屋 真 由 美
総 務 課 長	諸 石 豊	都 市 整 備 課 長	世 利 昌 信

まちづくり課長	吉川 聡 士	地域振興課長	平山 幸 治
税 務 課 長	中 牟 田 健	福 祉 課 長	安河内ひとみ
住 民 課 長	百 田 敦	会 計 管 理 者	横 山 剛
健康増進課長	舛 本 直 明	学 校 教 育 課 長	吉 本 孝 治
ふるさと応援課長	船 井 弘 喜	子 育 て 支 援 課 長	稲 岡 慎 太 郎
社会教育課長	伊 藤 泰 彦	上 下 水 道 課 事 業 課 長	岩 崎 勝
上下水道課管理課長	権 藤 武 範	総 務 課 参 事	黒 川 忠 敬
総務課課長補佐	石 津 伸 篤	監 査 委 員	吉 松 辰 美

午前9時00分開議

○議長（松山 力弥） おはようございます。今日は一般質問でございますけども、今日は須恵町の共生のまちづくりの皆さんの傍聴でございます。

そして、この当初、本会議初めて須恵町議会でライブ配信を行ったわけでございますけども、今日もライブ配信、町民の皆さん見ておられますので、一般質問の方、よろしく願いいたします。

それでは、これから本日の会議を開きます。

---

### 日程第1. 一般質問

○議長（松山 力弥） 一般質問を行います。

一般質問は、議員申合せにより、質問時間は答弁を含め1時間以内、質問回数は3回までとなっております。

順番に発言を認めます。11番、今村桂子君。

○議員（11番 今村 桂子） 11番議員、今村桂子です。通告に従い、ランドセルの無償配布について質問いたします。

この件については、須恵町の子育て世代の方々から私に陳情があり、質問をさせていただくことになりました。その中に男性の方もいらして、子育てに対する男性の関わり方が進んできていることを肌で感じました。本日も、代表の方が傍聴にいらしてしております。それでは、質問いたします。

小学校入学までに必ず準備するのがランドセルです。物価高騰が進む昨今、ランドセルの価格も年々高騰して、4万円から10万円以上です。金銭的にゆとりがない家庭にとっては大きな出費です。

添付資料1を御覧ください。

福岡市におけるランドセル1個当たりの価格の推移です。2023年2月では4万9,300円が平均でしたが、月を追うごとに物価上昇が続いています。4月入学の親を対象にした調査では、ランドセルの平均購入金額は5万6,425円、購入金額帯は6万5,000円以上が30%を超える結果となっているとのことです。

そこでお尋ねをいたします。須恵町では、ランドセルについての規定はありますか。通常のランドセルはデパートなどで売っている革製のものが多く、重さは1キロ以上とされています。

資料3と資料の次のページを御覧ください。

これは1万5,000円ほどのアウトドアメーカー、モンベル社の840デニールナイロン製、TPUラミネートの通学用リュックサックで、教科書やタブレットなど、学校で使う様々なもの

をオールインワンで収納できる通学用バックパックです。従来の革製品ランドセルに比べて約半分の550グラムと軽量で、雨にも強く子どもでも扱いやすい工夫を凝らしています。このような通学用リュックサックでもランドセルの代わりとして使用可能ですか。ランドセルについては、教育長にお尋ねをいたします。

次に、ランドセルの無償配布の実施について、町長にお尋ねをいたします。

コロナや物価高の影響などもあり、低所得の子育て世帯も広がる中、自治体が独自に小学校入学の児童を対象に、ランドセルや通学用リュックサックなどを無償で配布する取組が広がっています。本年から、富山県立山町、山口県防府市も取組を開始しています。

添付資料2を御覧ください。

これは、茨城県日立市が無償配布しているランドセルです。無償配布をしている自治体は多数ありますが、日立市は無償配布の先駆けで、取組を始めて40年以上が経過しています。保護者への経済的負担の軽減と、子どもへの入学祝いの2つの意味を込めて贈呈を行っています。資料2のランドセルは、日立市がかばん店に作ってもらっているもので、1万円程度で誰でもかばん店に問い合わせて買えるそうです。現在、赤黒以外を検討中だそうです。

ほかの自治体で配布されているランドセルも、資料2の2枚目のようなリュックサックで、多様性やLGBTなどへの配慮から、赤黒だけではなく、ほかの色も追加され、選択できるようになっています。福岡県内でも、子育て支援策として実施されている自治体もあります。

また、先ほど紹介したアウトドア用品の製造販売を行っているモンベルに製作を委託し、資料2のワンパックというリュックサックを無償配布しているのが、今回から参入をしている日立市の自治体でもございます。

資料4を御覧ください。

年齢別人口集計表です。ゼロ歳から6歳が対象となります。毎年、須恵町内の小学校に入学する新1年生に入学祝いとしてプレゼントするとして、来年度は入学予定者が309人です。入学祝いとしてプレゼントすることで、各家庭の経済支援という観点から、喜ぶ家庭が多いと思います。また、子どもたちも、町からのプレゼントはうれしいと思いますし、毎日使用するランドセルはいつまでも思い出として心に残ると思います。

子ども・子育て支援策として、今議会に子ども医療費の補助額の拡大と、子ども1人につき5,000円のカード支給が提案されていますが、ぜひとも須恵町においても経済的負担の軽減と子どもたちへの入学祝いとして、ランドセルの贈呈はできませんか、お尋ねをいたします。

○議長（松山 力弥） 答弁を求めます。学校教育課長。

○学校教育課長（吉本 孝治） おはようございます。ランドセルの無償配布をについて御説明いたします。

ランドセルに関しましては、百貨店の夏の目玉商戦の一つに挙げられるほど注目度の高い商品となっています。テレビなどでも各社が競ってCMを流し、消費者の購買意欲を高めていることは承知しています。また、色やデザインの種類はもとより、値段も一、二万円台から10万円以上する商品まで品ぞろえは豊富です。確かに議員がおっしゃるように、物価高騰が進む中でランドセルの購入は大きな出費であることは否定できません。

それでは、質問要旨に沿って御説明いたします。

1、2については、併せて説明させていただきます。

1、ランドセルについて規定はありますか。2、通学用リュックサックでも使用可能ですかについてです。

ランドセルについての規定はありません。様々な色、形のものが流通しておりますが、制限や指定は行っておりません。そのため、通学用リュックサックを使用することも可能です。

3、子育て支援策としてランドセル無償配布の実施についてのお考えはありますかについてです。

ランドセルの購入については、入学時に児童自身が楽しみにしていることや、保護者や祖父母がプレゼントする喜びもあると思います。先ほども申しましたように、夏休みに祖父母の元へ里帰りをする時期を狙ってランドセル商戦が熱を帯びているのも事実です。可愛い孫や子どもにランドセルをプレゼントするのを楽しみなさっている御家庭が多いのも事実です。また、そのことは、受け取った児童が6年間ランドセルを大切に使うことにもつながっていると考えます。一律に無償配布することを望んでいらっしゃる方がどれだけおられるかは分かりませんが、一律に配布することで幅広いデザインや機能の選択肢を奪うことにもなります。

そのため、無償配布ではなく、教育の質を向上させることを目的とした支援員等の人的配置の継続や、学習環境の整備や支援等に努めてまいりたいと思います。

なお、人的配置では、特別支援教育や少人数指導等の補助教員を会計年度任用職員で雇用しております。これまで行ってきた支援としては、入学時に各家庭で購入していただいていた算数ボックスの教材を町が一括購入し、2年間貸与するという方法を取って、保護者の負担軽減を図っております。

そして、議員が御心配なさっている住民税非課税世帯や家計急変世帯及びひとり親世帯に対しましては、児童1人当たり5万円の給付を行っておりますし、また、住民税非課税世帯につきましては、福祉の対策として1世帯当たり3万円の支給も併せて実施しております。さらに、この9月議会の補正予算に計上し、御審議いただきますが、子育て支援策として18歳以下の子育て世帯への商品券の発行や、物価高騰による材料費の値上げ分の小学校給食費の補助を考えております。

以上のような支援策を講じておりますので、新たにランドセルの無償配布については、繰り返しのようになりますが、考えておりません。

○議長（松山 力弥） 今村桂子君。

○議員（11番 今村 桂子） 今、お返事がございましたが、ランドセルについての規定はありませんということですが、現在、リュックサック型を使用している子どもはいないわけですが。その中で、安いということも、軽いということもあり、リュックサック型のもを使用したいと思ったとき、1人だけまたそれをからっていると、やはりいじめにつながる可能性があるということ、親御さんが大変心配をされていることが事実でございます。

ですから、もしこういう規定がないのであれば、リュックサック型のこういうものもありますというような内容のものを入れていただくとか、こういうものでも大丈夫ですよということを周知していただきたいというお願いがございました。その件については、いかに考えていらっしゃるかということをお聞きをいたします。

それから、子どものランドセルについては、親御さんじゃなくて、祖父母がランドセルをプレゼントするというのが楽しみだということも、もちろん分かっております。しかし、裕福な高齢者ばかりではありません。年金生活で2か月1回頂く年金よりもランドセルが高く、負担に感じているという祖父母もいらっしゃることもまた事実でございます。

そういうこともありますし、まずはランドセルを全員に交付、負担なしでプレゼントしていただければ大変ありがたいなということを保護者の方々からも聞いております。

今、試算を私のほうで一応してみたんですけれども、ランドセルが、資料4を見ていただきますと、毎年新1年生が約300人から340人いらっしゃいます。入学祝いとして、例えば、今回資料に挙げていますモンベル社製の1人当たり1万3,500円のランドセルを支給したいたします。これをプレゼントすれば、毎年405万円ほどかかることとなります。来年入学予定児の309人にプレゼントすれば、417万1,500円かかることにはなります。

しかし、全員が希望するわけではなく、これをやっているところに確認したところ、配布要領の案ですが、あらかじめ町から新1年生を持つ各家庭に支給申込書また兼誓約書ということで、転売防止目的のものを送付いたします。9月から12月に各小学校で開催する就学時健康診断で展示会を行って、支給申込書等を回収して、入学説明会当日にお好みの色のリュックサックを配布するという流れで行われているそうです。

福岡県で実施している町では、全員が希望するわけではなく、約80%弱の方が申請して支給をされています。須恵町で当てはめると309人の80%の約248人で、税抜きが334万8,000円かかることとなります。このぐらいの金額というか、この金額をどう見られるかは分かりませんが、子育てをしている方たちにとっては、非常に経済的に負担がかかる。また、高

齢者も、祖父母がランドセルを買わないといけないというプレッシャーもある方もたくさんいらっしゃると思います。

そんな中で、ぜひ町のほうから、これが普通のランドセルではなくて軽い550グラムの、例えば今言っています新しい形のリュックサック型のアウトドアメーカーのモンベル社であれば、普通のランドセルを持っている方でも、また荷物が重いときにそれを使いたいとか、そういうことも起こってくると思います。ぜひ検討をお願いしたいと思います。答弁を求めます。

○議長（松山 力弥） 平松町長。

○町長（平松 秀一） 内容については、今もう担当課長が言ったとおりのこととございます。議員さん方は、町民の方々の代表であり代弁者であるわけですから、議員さんもランドセルの無償配布についてお尋ねがあつて、今回一般質問をなさったんだろうと思いますけども、この町の経営をやっている私としては、全体を俯瞰した上で何が必要かということを見ながらやっていく必要があると思っています。

ランドセルに関しては、先ほど担当、私も教育委員会にいたから分かるんですけども、ランドセルというのは強制ではなくて、私たちもちっちゃい頃からランドセルってあつて、恐らく戦後の風習として生まれたんだろうと思うんですけども、これ何も文部科学省が強制しているわけでも何でもなくて、それが全国に普及して今に至って、大きなメーカーとかいろんなところの、何ていいますか、購買意欲をそそるような商戦の中でだんだんヒートアップしているんですけども、須恵町の場合は、根本的に考えて、ランドセルだけを捉えるんじゃなくて、私、教育長になったときに申し上げたように、ゼロ歳から15歳まで切れ目がない教育を支援していくんだと、これは子育て支援じゃなくて子ども支援でございます。子どもの心を救う、保育所や幼稚園のときに家庭的に恵まれない人たちとか、いろんなことも含めた上で、小学校に上がって行って中学校までに心をつくり上げていく。そのための教育のための予算というのを当時の町長に申し上げて、よその市町村と比べても教育予算に対する比率は高うございます。特に人的配置やりながらです。

その中でも、やはり給付型のもので用意しなければならないものについては、財政面を考えながら一つずつやっているわけでございまして、ランドセルだけを捉えて、一番最初全員に給付なさったらどうかということで、2問目では希望者に、以後は、議員の中でもどっちがいいか分からない。保護者の中でもランドセルでいいと思ってらっしゃる人もいらっしゃる。この問題自体は、我々が無償化しますと言って、全員の保護者が納得するかということ、そんな問題じゃないと思います、これは。

先ほど言ったように、生活困窮にある方々に対して不公平やないかということですけども、その対策については、先ほど担当が言いましたように、準要保護世帯、保護世帯に対する補助金

もありますし、その中にランドセルの購入もやって構わないようにたしかしていると思います。だから、生活的に困っている人たちがランドセルを買えないかという、それを使ってもいいようにしているはずです。

ですから、今のところランドセルにスポットを当てて、須恵町が補助をやるというのではなく、もっと広く俯瞰する中で、子どもたちにとって何が一番幸せなのかを考えながら、いろんなサービスを考えていく必要があると思います。

また、2問目でも同じような質問になっていますので、2問目でも私のほうからお答えしたいと思いますが、議員の質問が悪いとか言っているんじゃないです。できればいいんでしょうけども、そういう状況にランドセルはないということを御理解いただきたいなと思います。

それ以外のもの、議員から提案があつて、これをやったほうがいいなと思うのは、どんどんやっていきたいと思っています。

以上です。

○議長（松山 力弥） 今村桂子君。

○議員（11番 今村 桂子） 確かに今言われるみたいに、補助金の中でランドセルの制度もあるということですが、皆様、やはりランドセルが高額になっているということが、すごく経済的な負担になって、心を痛めていらっしゃることもまた事実でございます。

こんな中で、全員にということはやっぱり平等性ということで、するんだったら全員かなということ、私も全員にという、公平にということ、また、お金的に厳しいというのであれば希望者ということで、両方の質問をさせていただいたところでございます。

いろんな子育て支援のことがあっているということですが、高齢者の運転免許自主返納のことで、昨日ちょっと審議を、おとといですか、しておりましたが、1人4万円で249人、996万円が平成4年度にはかかっているということで、これは高齢者支援だけではなく、交通事故防止とか、いろんなことがある中でもございますが、その3分の1程度で子どもさんにランドセルを入学祝いとして、プレゼントできればいいかなという思いで質問をさせていただきましたが、町の事情というのも分かっておりますし、別の支援策を行っているということも十分承知で質問をいたしております。

皆さんにプレゼントできないということであれば、最初の質問の中に、ランドセルは規定をしていないということで、町長もいろんな形のランドセルがあってもいいという意味で発言をさせていただいたと思います。

そこで、やはり経済的に厳しい方たちは、この1万円幾らのランドセルを買って子どもたちに持たせようという思いがあるようでございますが、これをかったときに、ほかの子どもたちが高い6万円とか10万円超えのランドセルの中で、その子たちがいじめに遭わないかというのを



本当に危惧されています。このランドセルの利点は、やはり軽いところとか、いろんな荷物が入るところ、雨にも強いとかいろんな利点があるので、できればこういうランドセルもありますよということを周知していただきたいというのが、保護者の方たちの思いです。ランドセルがもしだめなら、こういうリュックサック型のランドセルも視野の中にありますよっていうことを、ぜひ町のほうからも言うていただければ、なるべくいじめにつながらないような形で支援をお願いしたいということが、一つのお願いでございました。これについてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（松山 力弥） 平松町長。

○町長（平松 秀一） 先ほどから言っているように、これ多様性がありますので、教育の観点から言っても、今おっしゃったことは当然のことで、教育委員会のほうに命令して、そういった方法もありますよという周知はやっていきたいなと思います。

以上です。

○議長（松山 力弥） 今村桂子君。

○議員（11番 今村 桂子） この取組がちょっと難しくても、今言われたみたいに周知をしていただければ、安いランドセルでもみんなが楽しく背負って、いじめのない学校生活を送れるような形でお願いができればと思います。

このような取組が、子育て支援のほう、たくさん町長のほうが考えていただいておりますので、各家庭の経済支援につながるのはもちろんのことですが、須恵町がさらに子育てしやすく、住みやすい、また住んでみたいと思えるようなまちづくりをよろしく願いをいたします。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（松山 力弥） 5番、男澤一夫君。

○議員（5番 男澤 一夫） 5番議員、男澤一夫です。通告に従い、中学校ランチサービスの利便性はということで質問いたします。

須恵町は、福岡県の60市町村で、選択制弁当給食を実施している数少ない町です。選択制ランチサービスは、平成27年5月から始まっており、様々な事情により弁当を準備できない家庭にとっては、とてもいい行政サービスだと思います。

しかし、利用されている方から、前の月に1か月分注文しないといけないなど、利便性が悪くランチサービスを利用しにくいなどの声を聞きます。このサービスを希望する多くの方に届けるために、利用について問題点の検証と利便性の向上について検討するべきではないでしょうか。町長の考えをお尋ねいたします。

1つ、利用代金の支払いは、利用月前月の校納金に合算し徴収されていますが、欠席した日の

返金は可能でしょうか。

2つ、弁当持参困難な日の急な弁当利用の対応はできるのでしょうか。

3つ、食物アレルギーをお持ちの生徒への対応はどうされていますか。

4つ、弁当を忘れた生徒への対応はどうされていますか。

5つ、今までの8年間で、生徒、保護者に利用について全員を対象としたアンケート調査をされましたか。

以上、5点についてお尋ねいたします。

○議長（松山 力弥） 答弁を求めます。吉本学校教育課長。

○学校教育課長（吉本 孝治） 中学校ランチサービスの利便性については御説明いたします。

現在のランチサービスについては、令和5年度から3年間の業務委託契約を締結し、円滑に運用されています。実施状況としましては、献立表を参考に、前々月の28日までに注文することとなっています。献立を見た上で発注が可能で、生徒の昼食の選択肢の一つとして利用いただいています。献立についても、カロリー計算をし、成長期の生徒に合った弁当の提供をしています。

ただし、親の弁当を食べたいや慣れているので食べやすい、ほかの家族の弁当を作るからなどの理由により、家庭から弁当を持参している生徒もおり、ランチサービスの利用者数は3割弱となっております。

それでは、質問要旨に沿って御説明いたします。

1、利用代金の支払いは、利用月前月の校納金に合算し徴収されていますが、欠席した日の返金は可能でしょうかについてです。当日欠席の返金は対応しておりませんが、病気等で長期欠席となった場合については、保護者から申出があった日の2日後より返金が可能です。

2、弁当持参困難な日の急な当日利用の対応はできるでしょうかについてです。通常、弁当を持参している生徒が家庭の事情により持参できなかった場合は、当日の利用は想定しておりません。

3、食物アレルギーをお持ちの生徒への対応はどうされていますかについてです。献立表にアレルギー表示をしておりますので、保護者が事前に確認でき、注文の参考にさせていただいています。また、入学説明会等でアレルギー調査を実施し、対象生徒・保護者には面談し、ランチサービスについての説明を丁寧に行っています。

4、弁当を忘れた生徒への対応はどうされていますかについてです。弁当を忘れるという表現が適切かどうかは分かりませんが、事情があって弁当を持参できなかった生徒は、自分で通学途中のコンビニ等で購入しています。ただし、お金の忘れ等で準備できなかった生徒に対しては、学校の職員が急遽買い出しに行くなどの対応は取っていただいています。また、そのことによっ

て、特段これまでにトラブルの報告は受けておりません。

5、今までの8年間で生徒、保護者に、利用について全員を対象としたアンケート調査をされましたかについてです。ランチサービス開始から約1年経過した平成28年9月と、請負業者が変更となった後の平成29年10月に、生徒、保護者に対し実施いたしました。

なお、アンケートの結果については資料として添付しておりますので、御覧ください。

以上です。

○議長（松山 力弥） 男澤一夫君。

○議員（5番 男澤 一夫） 弁当、当日利用は対応はできないというような御回答だったんですが、その中で、同じような選択性ランチサービスを実施している大野城市を調べました。そうしますと、スマホを使用してLINEで、PECOFREEという公式アカウントに登録しますと、当日8時30分までにランチ給食を注文すれば、当日に学校まで配達でき、1か月前から予約注文も可能とのこと。利用しやすい制度を採用されていると思います。須恵町も取り入れてみてはいかがでしょうか。1つです。

先ほど、献立の話がありましたが、ランチサービスを利用する理由として、やはりランチメニューの献立の内容もあるかと思えます。それで、宇美町の選択性ランチサービスを調べたのですが、学校給食運営検討委員会の各学校の給食主任、PTA代表、栄養教諭、学校栄養職員で構成されている献立部会で献立原案を審議し、承認されると献立が決定され、予定献立となるそうです。須恵町のランチサービスの献立は、どのように決定されているのかをお尋ねしたいと思います。

また、閉会中の事務調査として依頼していましたが調査事項の回答を一般質問資料に添付しております。③の利用者負担額を御覧いただきたいのですが、令和5年度須恵町の弁当は、利用者負担額300円、町の負担額157円、合計457円の弁当になっています。

2の利用者数の割合を見ていただくと、先ほど申されましたが、8年間で年平均計算しますと約25%が利用されています。宇美町を調べてみますと、弁当は利用者負担額280円、町負担額350円で合計630円の弁当になっており、また、利用者数の割合は約60%となっております。数字だけの判断は難しいですが、金額が高い宇美町の弁当のほうが内容的に充実しているのではないかと考えます。そのことが利用率にも影響しているのではないのでしょうか。

小学校には、給食費物価高騰等対策補助金が今度の補正予算にて計上されています。中学校の選択制ランチサービスには、給食費物価高騰等対策補助金がありませんので、物価高騰を考えると内容の維持のために、町の負担額を上げる必要があるのではないのでしょうか。

また、利用者の感想を今後に反映させるために、定期的なアンケート調査を実施されてはいかがでしょうか。LINEによる注文、献立作成、町負担額の見直し、アンケート調査の4点につ

いてお尋ねいたします。

○議長（松山 力弥） 答弁を求めます。答弁できるまでお願いします。通告になかったところ、説明できる限りでいいです。

○町長（平松 秀一） 今現在の弁当給食のデータを取られていると言われていると思うんですけども、なぜ須恵町がランチサービス系の弁当給食になったかというのを、もう10年以上たちましたので、ちょっと時間取って説明させていただきます。第1次給食検討協議会、これ吉松昭幸町長なされたときに、今でも覚えていますけれども、町長はここで、中学校の弁当は作って持つてこいと。あくまでも小学校の間は給食出すけども、中学校になって思春期になった時には背中を見せて、お父さんお母さんも頑張っているんだと、そういう意味でも、食育でも弁当を作りなさいということで言い聞かせなされて、1次のときは、給食問題はそれで終わっております。

その後、第2次の給食検討委員会、これ吉松昭幸町長から中嶋町長に替わって、私が、学校教育課長、学校教育課というのはたった1か月で子ども教育課に変わったんですけども、なったときに第2次の答申を出すときでした。私、何も分からずに中を調べる中で、中嶋町長の意向も酌みながらその検討委員会で検討をやっていたわけですけども、私はまず、子どもたちがどう思っているのかということで、その当時、現在該当者の中学生じゃなくて、小学生の5・6年生にアンケートを取ったんです。圧倒的に給食は食べたくない。6年間一生懸命給食を食べたっちゃから、中学校に上がったからお母さんの弁当を食べたいというのが圧倒的に多かったんです。それを無視して、要するに自校方式のお金をかけて給食やったりとか、センター方式でやるとかというのは、これはちょっとおかしいなということで、そのときの協議会でお話し申し上げて、いろんな中学に入っていくと活動も増えていくし、お父さんお母さんもだんだん年齢重ねられて、仕事でも忙しい場面が出てきて、なかなか弁当を作れない方もあるだろうなということで、他の地区を調べて、弁当配食、ランチサービスを考えたというのが経緯です。

その中で負担をどうするかとか、その当時の議員さんってもう今村議員しか残っていないじゃないかなと思いますけども、そういったことを喧々諤々やりながら今の制度にやって、須恵町の食育に合う給食をやろうと。

その当時の、最終的に、約10年近く前になりますけども、そのとき担当していたのが副町長が課長で、宇美町が先にやっていました。さっき言った大野城市ですか、やっていました。その辺りも検討しながら、須恵町のこの制度をつくったということです。

質問の要旨になかった負担金のことをおっしゃったけども、先ほどのランドセルも含めて、全てを国が、行政が子育てで負担するというのはいかがなものか。確かに生活困窮者とか、いろんな事情がある人たちは手を差し伸べないかんと思います。でも、通常の制度としては、やはりみんなが負担する、行政も負担する、国も負担する、これ負担してくれていないですけど、そして

保護者も負担しながら、みんなで地域で子どもを育てるという空気つくっていかないと、全部がインスタント方式になって人任せになります。

主体は、子どもなんです。親の便利さとか、我々は、それは一応政治家として、給食もただにしたりとか、ランドセルをただでやったりする。私、それは評価上がりますよ。でも、それが地域づくりに役立つかという、私はならないと思います。

だから、今現在の給食の単価の問題についても、最終的にこれが妥当なのかどうかというのは検討もさせますし、いろんなこと、質問の要旨になかった部分についても、教育委員会、今日書き留めていると思いますから、させますけども、根本的には、何もかもが便利な世の中がいい世の中かということです。保護者の方々が生活しやすいように、仕事しやすいようにやるのは我々の役目です。でも、保護者も、子どもに対して頑張っている背中を見せないと、子ども、育ちませんよ。私たちも、そうやって育ててきました。

だから、そのことを御理解いただきながら、ランチサービスについても、苦肉の策としてこういった形が一番いいんだと。今、ランチサービス利用している方々25%、それで私は構わないと思います。ランチサービスを食べながら、弁当を持ってきている子どももいるんですよ、部活をやっている子は。小学校のクラブチームのお子さん方も、やっぱり給食を食べて、戻ってクラブチームに行くときに御飯食べて行っている。だから、いろんなパターン、いろんな生活パターンの子どもがいるということです。その中で、統一的にこの部分でやろうと決めたときには、こういった制度になってしまうということです。

だから、私は、給食問題に関してはもう一度教育委員会に対して、小学校の5・6年生にアンケートを取ってみたいと思います。これ、命令します。今の中学生じゃありません。子どもたちがどう思っているかです。それぞれの保護者の方々が、給食があったら便利なのは、便利に決まっていますよ。そうじゃなくて、子どもたちがどう思っているかというのを10年前にやったときに、これは無理だと。必要な家庭にランチサービスの弁当を提供しようという形で始めた弁当、そういうことですから、御理解してください。

○議長（松山 力弥） 定期的にアンケートの調査は、それでいいですね。いいですか。それと通告なかったけど、献立の内容だけ説明簡単にできます。できなかつたらもう消しますけど、よろしいですか。献立の内容についての質問がありましたけど、献立の決定は誰がしているか。どなたがする。吉本学校教育課長。

○学校教育課長（吉本 孝治） 献立の決定につきましては、今委託をしている業者、栄養士がおりますので、そちらが決定しております。

○議長（松山 力弥） よろしいですか。男澤一夫君。

○議員（5番 男澤 一夫） 町長の考え方、気持ちはよく分かりました。

関連してなんですが、今、広島県で委託業者の倒産により、たくさんの施設での食事の供給がストップしているということによって、対応に追われている事案が起きていることは、社会問題となっているのは、皆さん御存じかと思います。須恵町の委託業者の経営状況等の確認は既に行っているのかと、また、このような事案がいつでも起こり得ると思いますので、町長の考えとして代替案を持ってあるのかお聞きしたいと思います。

○議長（松山 力弥） 平松町長。

○町長（平松 秀一） これ、一般質問のルールとして、今おっしゃったことについては、ここで言われてもデータはないわけです。答えられない、答えたいけど、御理解ください。

ただ、先ほどから言っていますように、須恵町というのは子どもを基盤に据えながらやっていきますから、もしそういった状態になったときは、何が何でも弁当が必要な家庭、お子さんに対しては提供するようにさせます。

以上です。

○議長（松山 力弥） 男澤一夫君。

○議員（5番 男澤 一夫） そういうときの対応がきちっとできるというようにしっかり答弁いただきましたので、安心しました。

これにて質問を終わります。

○議長（松山 力弥） これにて一般質問を終結します。

---

○議長（松山 力弥） 以上で、本日の日程は全て終了しました。

本会議終了後、10時より全員協議会を開催しますので、特別会議室に御集合願います。

次の本会議は、9月15日午前10時から行います。

本日は、これにて散会します。

午前9時44分散会

---